

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

データ駆動科学教育研究センター運営委員会	
(責任者名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">神谷 勇毅</span>	(役職名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">委員長</span>

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等																												
学内からの視点	令和7年度の当該プログラムレベルの履修者、修了者について下記に示す。																												
プログラムの履修・修得状況	<p>《リテラシーレベル》</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">科目名</th> <th style="width: 20%;">対象学生数</th> <th style="width: 20%;">履修者数(修了者数)</th> <th style="width: 20%;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「データサイエンス概論」 ※ただし、前年度までに未履修だった2名を含む。</td> <td style="text-align: center;">140名</td> <td style="text-align: center;">140名(134名)</td> <td style="text-align: center;">100%(95.7%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>《応用基礎レベル》</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">科目名</th> <th style="width: 20%;">対象学生数</th> <th style="width: 20%;">履修者数(修了者数)</th> <th style="width: 20%;">比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「データ科学基礎演習A(前期)」</td> <td style="text-align: center;">156名</td> <td style="text-align: center;">6名(6名)</td> <td style="text-align: center;">3.8%(100%)</td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習A(後期)」</td> <td style="text-align: center;">290名</td> <td style="text-align: center;">2名(2名)</td> <td style="text-align: center;">0.6%(100%)</td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習B(前期)」</td> <td style="text-align: center;">156名</td> <td style="text-align: center;">1名(1名)</td> <td style="text-align: center;">0.6%(100%)</td> </tr> <tr> <td>「データ科学基礎演習B(後期)」</td> <td style="text-align: center;">290名</td> <td style="text-align: center;">5名(5名)</td> <td style="text-align: center;">1.7%(100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記科目の重複履修を除いた合計 156名(前期)/290(後期) 21名(21名) 3.8%(前期)/1.7(後期)(100%)</p>	科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率	「データサイエンス概論」 ※ただし、前年度までに未履修だった2名を含む。	140名	140名(134名)	100%(95.7%)	科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率	「データ科学基礎演習A(前期)」	156名	6名(6名)	3.8%(100%)	「データ科学基礎演習A(後期)」	290名	2名(2名)	0.6%(100%)	「データ科学基礎演習B(前期)」	156名	1名(1名)	0.6%(100%)	「データ科学基礎演習B(後期)」	290名	5名(5名)	1.7%(100%)
科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率																										
「データサイエンス概論」 ※ただし、前年度までに未履修だった2名を含む。	140名	140名(134名)	100%(95.7%)																										
科目名	対象学生数	履修者数(修了者数)	比率																										
「データ科学基礎演習A(前期)」	156名	6名(6名)	3.8%(100%)																										
「データ科学基礎演習A(後期)」	290名	2名(2名)	0.6%(100%)																										
「データ科学基礎演習B(前期)」	156名	1名(1名)	0.6%(100%)																										
「データ科学基礎演習B(後期)」	290名	5名(5名)	1.7%(100%)																										
学修成果	<p>※応用基礎レベル申請科目である「情報リテラシー」「情報・統計処理」は、卒業要件として必修であるため割愛した。「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」は、学習カリキュラムの都合から1年生前期での履修はできない。</p> <p>《リテラシーレベル》 本教育プログラム(リテラシーレベル)の申請科目「データサイエンス概論」は、全ての学科で必修となっており、全学生が卒業までに必ず履修することとなっている。</p> <p>《応用基礎レベル》 本教育プログラム(応用基礎レベル)の申請科目「データサイエンス概論」「情報リテラシー」「情報・統計処理」も、全学科で必修としており、全学生が卒業までに必ず履修することになる。なお、「情報・統計処理」では、「データサイエンス概論」で学んだことを演習形式で定着させ、「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」につなげる狙いがある。また、「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」は、地域活性化人材育成事業(SPARC)の連携開設科目として、事業責任大学の東海国立大学機構岐阜大学から提供を受け実施している選択科目となっている。</p>																												
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》 本プログラムを含む、すべての授業を対象とした学生アンケートを実施し、学生による授業評価・理解度等について把握している。学生アンケートの結果は、印刷物を図書館等に設置し、全学生ならびに全教職員に周知している。 また、地域活性化人材育成事業(SPARC)の連携開設科目として、事業責任大学の東海国立大学機構岐阜大学から提供を受け実施している科目である「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、岐阜大学のデータ科学基礎担当教員と本学データ駆動科学教育研究センターに所属する教員とで、学生アンケートを含めた学生の理解度についての分析を行い、その結果を東海国立大学機構岐阜大学発行「岐阜大学教育推進・学生支援機構年報」に実践報告している。</p>																												
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>《リテラシーレベル》 本プログラムを含む、すべての授業を対象とした学生アンケートを実施し、学生による授業評価・理解度等について把握している。学生アンケートの結果は、印刷物を図書館等に設置し、全学生ならびに全教職員に周知している。</p> <p>《応用基礎レベル》 構成科目のうち、本学所属教員が行う「情報リテラシー」「情報・統計処理」については、卒業必修としているため、授業履修の推奨を左右するものではない。 SPARC連携開設科目として東海国立大学機構岐阜大学より提供を受ける「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、学生アンケートを含めた学生の理解度についての分析を行い、その結果を東海国立大学機構岐阜大学発行「岐阜大学教育推進・学生支援機構年報」に実践報告している。</p>																												
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>《リテラシーレベル》 本教育プログラム(リテラシーレベル)申請科目「データサイエンス概論」については、全学科必修科目(1年生前期配当科目)としており、履修率は100%となる。</p> <p>《応用基礎レベル》 応用基礎レベルについては、選択科目ということもあり、履修者数・履修率は低い。また、地域活性化人材育成事業(SPARC)の連携開設科目の科目として、東海国立大学機構岐阜大学から提供を受けている「データ科学基礎演習A」「データ科学基礎演習B」については、オンデマンド開講としているが、学内においても週に1回、サポート時間を学生に明示する等して学生が履修しやすい環境を整備している。 また、ガイダンスや各種関連授業の機会において、学生に履修を促す取り組みを継続して行っている。</p>																												

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本学では、各学科において卒業時に就職先の調査を行っている。また、近隣の関連企業（就職実績があり、継続して採用計画のある企業など）に対しては、企業訪問を実施している。その際、本教育プログラムの実施について説明し、修了証の発行などの取り組みについて評価していただいていることを確認している。今後も、本プログラムの修了者について状況把握を行う予定である。</p> <p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本学では自己点検報告書に基づき、定期的に外部評価委員の方の現地調査を受けている。また、外部評価とは別に、令和2年12月には本学運営委員会の外部有識者を含む意見も踏まえ、令和2年12月には「岐阜市立女子短期大学ビジョン」として、短・中長期計画を発表している。本プログラムは、この「岐阜市立女子短期大学ビジョン」に同調し計画されたものである。また、このビジョンを実現すべく「データ駆動科学教育研究センター」を令和5年1月に設置した。データ駆動科学教育研究センターを主体として、今後も継続的に産業界等からの本プログラムの内容・手法について意見聴取を行っていく。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本学が持つ3学科（国際コミュニケーション学科、健康栄養学科、デザイン環境学科）それぞれの特性、専門性に合わせた内容はもちろん、分野を問わず幅広い関心を育むため、実社会でAIがどのように活用されているか先進的な事例を紹介し、学ぶ楽しさを喚起する工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>《リテラシーレベル》・《応用基礎レベル》</p> <p>本教育プログラム申請科目「データサイエンス概論」「情報リテラシー」「情報・統計処理」は、データ駆動科学教育研究センターに所属の教員が担当することで、全学的な数理・データサイエンス・AI教育のノウハウを貯蓄し、同教育分野の発展に寄与していく。また、これまで通り、学生による授業評価等から学生の理解度等を把握、分析し、授業改善につなげていく。</p> <p>応用基礎レベルのコアとなる科目となる「データ科学基礎演習A」ならびに「データ科学基礎演習B」については、地域活性化人材育成事業（SPARC）の連携開設科目として、事業責任大学の岐阜大学から提供を受け実施している科目となっている。岐阜大学のLMSを活用した、オンデマンド形式での開講となっており、受講生はなれないICTツールでの受講となる。そのため、本学データ駆動科学教育研究センター所属の教員が週に1回、サポート時間を設けて本学学内できめ細かな学習サポートを行う体制と構築し、体制を強化し、オンデマンド形式授業受講にあたっての不安を軽減するような体制を準備している。</p>